

Access

第 61 号

2026年(令和8年)9月1日

学校は大人に近づくところ

黒部市教育委員会 教育長 齊藤 誠

予測不可能なほどのスピードで世界が変化し、未来像が描きにくい中、改めて「学校」の役割や意味が問われているように思います。学校教育に携わる私たちは、学力の育成や心の教育を土台として、子供たち自身が社会課題を自分事として捉え、考え・判断・選択し、未来志向で生きる力を養うことができるよう、指導観や子供観を更新していかなければなりません。多様性の包摂も課題の一つです。

いろいろな機会を捉え、「本物・ほんもの・ホンモノ」との出会いを大切にしてほしいとお話することがあります。私自身は、絵本との出会いがその一つです。谷川俊太郎さんの絵本『ぼくがっこう』より、お気に入りの部分を紹介したいと思います。

がっこうにはひろいにわがある
がっこうにはいろんなはながさく
なかがいいともだちがいる
きらいなともだちがいる
きらいなともだちがすきになることもある
けんかしてなかよくなることもある

子供たちが成長するときには、「ひろいにわ」(=教室やグラウンドなど)を舞台として、学習したことや様々な体験活動、多様性を含んだいろいろな人との出会いなど、多様な要素が絡み合い響き合いながら、学校生活が成り立っています。そして、子供たちが頑張っている姿は、「いろいろなはながさく」と表現できます。ケンカしても仲直りすることによって、友情が育まれることは、多々あるものです。互いの思いや価値観の違いを受け入れ、認

め許し、問題やトラブルを乗り越えてこそ「いろいろなはな」(=宝物)になります。このような、多様な生き方に対して、対話しながら折り合いをつける体験を担保することこそ、「がっこう」の大切な役割です。

がっこうにいきたくないひがある
がっこうがたのしいひがある
いつかがっこうとわかるひがくる
ぼくはすこしずつおとなにちかづいていく

学年が進むにつれて、自我が育ち、気持ちが不安定な日もあります。頭では分かっている、気持ちが整わないこともあります。それでも、友達や先生等との豊かで温かな関りを通して、まるで、風や虫によっておしべの花粉がめしべに運ばれて実がなるように、楽しいことや悔しいことも、残念なことや嬉しいことなどが積み重なって、心も体も成長し、未来を担う大人に近づいていく…そんな子供たちの成長をみんなで喜び合える「がっこう」でありたいとの思いを強くしています。

本誌の題名である「Access(アクセス)」は、「近づくこと」「利用すること」「接続すること」などを意味する英単語です。子供たちだけでなく私たち教職員も、失敗やトラブルを恐れず、互いの違いを受け入れるよう、もう一歩ずつ近づきませんか。そして、みんなで、みんなの「がっこう」が楽しく充実するよう、笑顔が広がるよう、未来に向かって力強く歩むことができるよう、日々の学校生活を大切にしていきたいでしょう！



「スイスから日本へ ～私たちから見た学校教育～」

講師 ヴィンセント メラー氏 井上 華代 氏

日本への移住

動機

- ・海外で子供たちに日本語の習得が困難に感じた。
- ・子供たちを日本の中学校へ通わせたい。

大切にしたこと

- ① 子供のメンタルケア
- ② 富山について知ること
- ③ 人間関係(学校、近所、地域)



移住までの道のり

- 2022年 家を購入
- 2023年 荻生小学校へ2週間体験入学
黒部市剣道クラブへも体験入団
- 2024年 再度 体験入学・体験入団
- 2025年 6月末移住



スイスの学校についてのあれこれ

教育のシステムについて

- ・義務教育中の全学年に留年、飛び級制度がある。
- ・義務教育以降は落第することもある。
- ・入学条件は可視化された成績結果に基づくため入学試験はほぼない。
- ・高校卒業資格は国家資格となる。
- ・大人になってからでも学び続けられる環境が整っていて、国や企業の支援も充実している。

スイスの学校と日本の学校を比べてみて・・・

スイス

- ・大学まで無償化
- ・将来の目標をもつことで、ゴールまでの道筋を効率的に進めやすい仕組み
- ・試験結果と成績評価基準が明確



日本

- ・マナーやルール、生活習慣など社会で必要なことをしっかり学べる。
- ・先生方の責任感が強い。
- ・教育プログラムがしっかりしている。



カルチャーギャップについて

- ・学校で先生と親子を交えたイベントあり。
→先生と生徒の距離が近い。
- ・学校の校外学習などのお知らせは紙1枚
→日本の学校のような詳しい案内はない。
- ・ランチ時間は先生も休憩。昼休憩に学校に残る。子供は外注で見てもらう人を雇う。
→先生は関与しない。
- ・おやつ持参、通学方法自由、ピアス、髪染めも自由。

小学校について

- ・第1言語フランスの場合、第2言語ドイツ語、第3言語英語を学ぶ。
- ・グループワークやプレゼンテーションが多い。
- ・学校で必要な物(文房具、教材など)は全て支給されるため、子供たちは、バッグにおやつ、水筒、ファイルだけを入れて登校する。
- ・宿題は週1回のみで、長期休みは課題なし。
- ・スイスに塾はない。



日本に来て感じたこと

ジュネーブの学校は多国籍で人種・政治・宗教・戦争に関係なく、子供たちは交流関係を築いている。

スイスにいた頃は同じ日本人というだけで安心感があり、細かいことは気にならなかった。日本に帰ってきてみて、小さな違いにこだわり、比べてしまっていることに気づいた。

↓
視野を広げることで「今いる環境だけが全てではない」と感じるようになり、
選択肢も増え、細かいことにとらわれにくくなる。



第1回保護者会

6月20日(土)に中央小学校で第1回保護者会を開催しました。7組のご家族が参加されました。言語、放課後の過ごし方、家庭学習について(タブレットの宿題、宿題の量)、学校での学習(漢字の書き順、社会や理科の用語)、集団活動について話題になりました。12月には、未就学児、小学生の家族対象に親子ふれあい活動と保護者会を計画しています。お気軽にご参加ください。



サマースクール

Let's introduce ourselves and swap stickers.



よろしくね~!

7月30日(木)にサマースクールを行いました。黒部市地域観光ギャラリーの見学、くろべ牧場 まきばの風で動物とのふれあいとアイスクリーム作り体験をしました。10家族30名の方の参加がありました。自己紹介をし合ってシールを交換し、参加された方同士も親睦を深めることができました。

本当に登山しているみたいだよ!

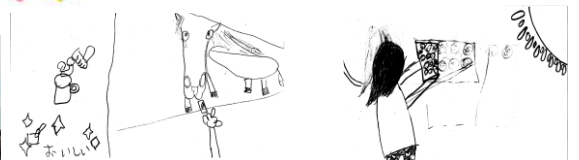


黒部市地域観光ギャラリー

くろべ牧場 まきばの風



やぎのえさやり、ドキドキするなぁ



えいごをつかって話ができうれしかったです。たくさんシールをあつめることができました。アイスがおいしくできてうれしかったです。



アイスクリーム作り体験

牧場についたら、まず動物たちに会ってふれ合いました。とてもかわいかったです。その後、いろんな人と知り合いました。とても楽しかったです。最後にメインのアイス作りをしました。とても楽しかったです。おいしくできて良かったです。

はじめておばあちゃんとバスにのって、たのしかったです。アイスクリームのざいりょうやつくりかたをまなでたのしかったです。



早くたべたいなぁ

アイスクリームはバニラあじだったよ◎

今年で2回目のサマースクールでした。ちがう学校の友達とも久しぶりに会えてよかったです。アイスクリーム作りでは、同じテーブルの人と交代で楽しく作ることができました。アイスクリームはおいしかったです。

Rちゃんといっしょにぼくじょうでアイス作りしたことがたのしかったです。



おいしいね!

馬ににんじんをあげて、馬をさわりました。アイスを作って食べました。おいしかったです。



ちょっといい話



みんな一緒に、伸びていこう

黒部市立中央小学校 教諭 松田 亜紀菜

A くんは、入学して学校生活に慣れ、できることが増えていく一方で、国語科での学習、特にひらがなの学習に困難を感じるようになってきた。そこで、先生方にアドバイスをいただき、絵カードを使って、日本語の語彙を増やす取組を始めた。授業の隙間時間に、担任と一緒にカードをめくっていると、周りの友達が A くんの上に集まって一緒に言ってくれるようになった。もちろん A くんは満面の笑みだ。

「A くんは、今、日本語の勉強をがんばっているんだよ、中国語も話せるんだよ」と伝えると、「A くん、すごい! 神様みたい!」と、ある子が言った。小学校1年生の子供たちが、友達をまるごと受け入れ、素直に発した言葉だった。

みんなと共に伸びようとする A くん。多様な他者と学びを深める子供たち。その両方を受け止め、集団として成長する学級をつくっていきたい。



「いっしょにあそぼ」から始まった友達の輪

黒部市立若栗小学校 教諭 花房 有沙

4 月、スイスから日本へ引っ越してきた C さんは、言葉や文化の違いから学校生活に戸惑いを見せていました。ある日の休み時間、「1 年生みんなでおいごっこをしよう!」という声が上がると、友達は「こうするんだよ」と優しくルールを教え、自然に C さんを輪の中へ迎え入れました。その後も困ったときに声をかけたり、一緒に遊んだりする姿が広がり、C さんも自分から友達に話しかけ、笑顔で学校生活を楽しむようになりました。国や言葉や文化が違って、相手を思いやる気持ちがあれば心は通い合えることを、子どもたちは教えてくれました。この出来事を通して、誰もが安心して過ごせる温かい学級づくりの大切さを改めて実感しました。

Thank you! See you again.

Stephanie Vincitore



I will be forever grateful that I got a chance to live in a place like Kurobe. The memories I' ve made with the welcoming community and wonderful students and teachers will be with me for the rest of my life. Kurobe has become like a second home to me, and I hope to come back and visit so that I can share its beautiful scenery and community with my friends and family. Thank you, and let' s meet again someday!

Mark Hornyak



THANK YOU

As for myself, it' s been an honor to help teach and guide those young people for five years - and though I don' t expect to go down in local legend, it' s enough to know that I' ve made a difference in many of their lives. Thank you to every citizen, student, and person who has helped make this place feel like a home to me. I' m happy to have done what I can for the future of Kurobe - its children - and I hope that I can someday come back, step outside my front door, and watch the sun rise over a

Kurobe that shines even brighter than today.



Katherine Counts

I am so grateful to have lived in beautiful Toyama these last 5 years. There were some challenging times, but also so many people who helped me. Your kindness made Toyama feel like my home too. To my students, teaching you was my greatest treasure. Wherever I go, I will always be cheering you on.

